

#### 4-3 eラーニングオープン教育の構想

大学教育の支援、大学教育と高校教育との連携、生涯学習に対する学習機会の提供を実現するために、高校生、大学生、社会人を対象にeラーニングによるオープンな「学びの場」を提供するグランドデザインを平成25年度までにまとめるため、21年度より新規に「eラーニングオープン教育振興委員会」（委員長：玉木欽也、青山学院大学）を設置して検討を開始し、これまでの検討状況を報告する。

本委員会では、21年10月、22年1月、3月の3回委員会を開催し、eラーニングによるオープン教育のイメージについて理解の共有に努め、以下のように整理した。

##### (1) 目標設定

本事業のねらいは、eラーニングの手法を用いて、大学生、高校生、社会人にオープンな学習機会を提供することにより、日本の人材育成向上の促進を支援する。

##### (2) eラーニングによる教育支援の概要

- ① 主体的な学びを希望する大学生、高校生、社会人を対象に、人材育成に熱意のある関係者がネットワーク上に集い、分野・テーマ別にeラーニング方式を用いた学習の場を形成し、学びを支援する。
- ② 大学教育の補完にとどまらず、優れた知的資源も含めてアーカイブ化し、学びの水準に応じた教育支援とする。
- ③ 希望に応じて学習成果の発表・講評を行い、優れた成果についてインターネットで紹介し、自立的な学習の深化・持続化を促進する。
- ④ 退職した教員、社会人を含め、協力を希望される関係者の知的資源をアーカイブ化し、インタビューの映像、音声を交えたコンテンツをネットワークで提供する教育グリッドを目指す。
- ⑤ コンテンツは、作った時点で陳腐化するので、協力者の負担軽減も考え、生の声が聞ける仕組みをeラーニングで実現する。
- ⑥ LIVEで知識、考え方を紹介してくれる協力者をデータベース化し、ネットワーク上で学習者が学びを選択して、コンテンツの視聴及び双方向による学びの支援が受けられるようにする。

##### (3) 教育支援の具体的なイメージ

###### 【大学生に向けたオープンな「学びの場」】

- ① 大学教育を高度化又は補完するため、本協会が作成した学士力をもとに、初年次教育・共通教育、リメディアル教育、分野別教育を対象として、協力の得られる教育をとりあげる。
- ② 複数分野にまたがる学際領域の教育、大学連携、産学連携、高大連携が期待される教育が考えられる。
- ③ 教育コンテンツの水準は、リメディアル教育、基礎知識習得の教育、知識活用教育（イノベーション教育）、キャリアアップ教育を対象とする。

- ④ 産学連携として、産業界が大学、社会へ提供しているコンテンツの一部を学士力の観点から分析し、必要なコンテンツの整備を図る。
- ⑤ 学習者のインセンティブを高めるため、ネットワーク上で学びの成果を公表し、産業界、地域社会を含めオープンに評価や助言が得られるようにする。
- ⑥ 学びの動機付けに役立つよう、学びの題材について、社会での取り組み、世界での取り組みを紹介し、学習者として社会及び世界への関与の仕方について認識できるようにする。

#### 【高校生に向けたオープンな「学びの場」】

- ① 高校教育には限定しない。学びの好奇心を助長できるよう、大学教育でとりあげる教育を題材にして、自主的にアドバンスな学びを支援することで、学びの楽しさを実感させる。
- ② 学びの題材について社会での取り組み、世界の取り組みを紹介し、自立的な学習の姿勢が身につくようにする。
- ③ 高校生向けのキャリアアップ教育を提供する。

#### 【社会人に向けたオープンな「学びの場」】

- ① 企業・事業内研修では得られない知見を提供する。
- ② 教養・専門教育でとりあげる基本原理、専門教育の高度な知見を解説的に紹介する。
- ③ 社会人による優れた体験、知見を共有し、テーマ別に紹介する。

#### (4) 検討の進め方

第一段階として、eラーニングオープン教育のイメージについて理解を共有し、ニーズの調査を行い、事業価値の有無を把握する。

第二段階では、eラーニングオープン教育システムの仕組みを整理し、事業の可能性についてアンケート実施などを行い、課題を整理する。

第三段階では、事業構想をとりまとめ、実施計画を検討することにした。